

第2回 上田地域の高校の将来像を考える協議会 次第（会議録）

日時：令和元年12月23日（月）

午後6時30分～

場所：上田市役所本庁舎6階 大会議室

1 開 会

2 会長あいさつ

土屋会長）

本日はお忙しい中お集まりいただき、誠にありがとうございます。

さて、本年8月に立ち上げました本協議会につきましては、旧第5通学区であります上田市、東御市、長和町、青木村の4市町村の地域における高校の学びのあり方について、長野県教育委員会に意見・提案することを目的としています。

前回の会議では協議の進め方を確認し、県教育委員会からは高校改革の実施方針や取組について説明をいただいたところです。

本日の会議内容につきましては、前回会議でご提案をいただきました「アンケート調査」の結果をもとにした意見交換を中心に進めさせていただきたいと考えています。

委員の皆さま、それぞれお立場からの忌憚ないご意見を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

3 議 事

(1) 上田地域（旧第5通学区）各高校の現状等について（事務局：県教育委員会）

資料に基づき事務局及び高校校長会から説明

<質疑応答>

・委員）

旧第5通学区として、県立や公立高校のほか、私立高校の扱いも含めて議論すべきと考える。
⇒（県教委 事務局）前回協議会では私立高校の話は出ず、公立高校の学びのあり方について協議されている。

（上田市 事務局）公立高校を中心とした県の学びの改革に対して依頼されており、基本的には県立・公立高校に関して議論いただく形としている。

・委員）

協議会の趣旨として理解した。

(2) 高等学校に関するアンケート調査結果について（事務局：上田市）

資料に基づき事務局から説明

<質疑応答>なし

(3) 意見交換

土屋会長)

それでは、委員の皆さまからお気づきの点、御意見を申し上げます。

進め方として、学校関係、産業界、行政など順番にお聞きしていきたいと思います。また、アンケートの主な意見である流入超過や遠距離通学なども踏まえまして、忌憚のない御意見を出していただければと思います。

<意見交換>

・委員)

アンケート結果を見ると、中学生は「普通科、全日制」をイメージした選択が大半であり、外から見えるものに「高校の魅力」を感じている一方、高校生は自分の進路に合わせて「何を学びたいか」という視点に移っているように思う。

進路を決める際、専門的な教科の学習についての特色があることを中学生に理解できるよう、また、保護者にも説明する努力が必要と考える。

・委員)

長野や佐久など他地域からの流入が多く、特に保護者からの不安の声が多く見受けられるが、一方で依田窪地区は上田市内へ向かう交通手段の検討が必要な状況にある。

このような地域性を、高校の再編でどう配慮すべきか、旧第5通学区の課題と考える。

・委員)

流入超過の問題は保護者や職員からの指摘もあるが、切磋琢磨する機会が増えたり、高校としての総合力が高まるという良い面もあるように思う。

交通の面では、上田駅から距離がある所については何らかの手立てが必要と考える。

・委員)

望ましい通学時間の回答項目を見ると、1時間以内を望む声が大半であり、上田地域から通える高校がどこになるか、物理的な面で選択肢が限られている状況にもあると思う。

・委員)

それぞれの高校で特徴を持って取り組まれているが、中学から高校に入る時には点数で高校を選ぶというのが現実的なところであり、もう少し違う形で選ぶことができればと感じている。

さらに地域と結びついた取組が重要であり、具体的には高校でも地方創生に取り組み、地域の学びを大切に、行政や企業との関わりという面から高校を選択するということもあり得るものと考えている。

・委員)

保護者の立場から、通学区の規制を望む声も多いが、県立高校のレベルアップのために規制しない方法もあるものと考えている。一方、交通の面では遠くに住む人たちへの配慮が必要と考える。

発達障がいのある子どもが不登校となるケースがあり、高校での理解も大切であり、理解ある先生を配置してもらい、過ごしやすい環境を整備してもらいたいと思う。

・委員)

上田地域への流入・流出が課題との声が多く、通学時間帯の課題も含め、県全体で整理すべきと考える。

「学んでみたい学科」の項目では、普通科が大半を占め、農業科との意見が少なく残念であり、今後、この対策を行っていくべきと感じた。

・委員)

高校選択については、本人の意見だけでなく、保護者の意見も大いに反映されているように思っている。自分の能力に見合った高校を決める傾向にあると思うが、もう少し柔軟な選択ができれば良いように思う。

・委員)

長和町から、上田市の普通科に通う場合、通学時間の問題もあって下宿されている生徒も多々いるのか。

・委員)

様子を見る限り、通学している生徒が多いように思う。バスに乗る時間帯について苦慮している実態がある。

・委員)

丸子修学館は「産業と人間」の育成としてやってきているが、依田窪地区から容易に通える普通科を置いて大学進学を目指せるようになれば、また地元に戻って来られる人材育成につながると考える。

また、総合学科となっても、農業人の育成は難しい状況にもあり、成績で割り振られている子どもが多いと感じている。上田地域でも農業科の検討が必要であり、通学しやすい、学べる学科の設置が望まれる。

・委員)

青木村で開催されている「子育てフォーラム」には、上田高校SGH（スーパー・グローバル・ハイスクール）の生徒に関わってもらっているが、子ども達の育ちが確かなものであると感じている。

自閉症など発達障がいのある子の高校での受入れは長野県内で6割あるが、その子ども達が卒業できなかつたり、無業者となっている現状もあるとのことで、大きな問題であると考えている。

単位制・多部制や通信制の学校もあるが、義務教育も含めて一丸となって改革を進めていくべきと考えている。

・委員)

依田窪南部中学校からは蓼科高校に通う子どもが多く、通学にかかる物理的な時間は仕方のないことで、通学費や下宿にかかる費用について、町で補助金を出している。

中学と高校の連携を考えたときに、中学校のコミュニティスクールでは地域から学ぶ授業を実践しているが、経験した内容が反映されない状況にあり、高校の選択において、試験内容の選択肢の一つに加えてもらいたいと考えている。

・委員)

アンケート結果からも分かるように、流入超過や通学時間の問題に疑問を感じたり不安を覚えている生徒・保護者の意見が多く、委員の皆さんからも意見を出していただいて、旧第5通学区の実態をまとめていきたいと考えている。

私は学生時代、理想の高校について仲間と話をし調べる中で、高校教育3原則「小学区制、男女共学、総合性」があると知った。県の教育委員会でも高校教育における課題を克服するた

め変えてきていることもあると思うが、その中で第5通学区への流出入の割合は10%を上限とすることも、かつて対応されてきている。現状を踏まえ、生徒や保護者の思いを、どのようにしていくべきか、皆さんと考えたいと思っている。

・委員)

通学時間や点数で進路決定しなければならず、子ども達が進路を考える時間が取れない現状にあり、高校での体験学習の機会が大事な取組であると考えている。義務教育でも高校教育でも、授業改善や教師の意識改革が必要であり、先生一人ひとりが生徒に寄り添い、子どもの思いを受け止めながら、進路選択に向けていただきたい。

30人学級という少人数の体制についても、高校改革の検討の中に加えていただきたい。

また、通信制高校に通う子ども達の中で、卒業はできても就職につけていない無業者となる割合が約4割に及ぶ現状については、社会に出ることを見据えて子ども達が鍛えられているのか心配もあるため、通信制の支援を課題として考えていただきたい。

高校の先生も生徒と一緒に関わりながら社会経験を積む中で自分磨きをしていくことが大切であり、社会参加の厳しい現状を踏まえ、スキルを学び、経験を積むことで自分を見つめ直す機会が必要と考える。

・委員)

青木村では保・小・中が一校ずつのため一貫で対応できているが、中学と高校での交流の場も必要であり、保護者のアンケート回答にあるように、基本的な学力を身に付ける、自分の進路に応じた選択ができるという幅の大きさ、社会人としてのコミュニケーションの習得など、今あるべき高校として期待されているものと考えられる。

今の保護者のニーズに応じた改革を進めて行くという視点で議論していく必要がある。

・委員)

長野県では若者の「自死」が大きな課題であると捉えており、「生きるとは何か」ということをしっかり教えることが重要で、それぞれの高校の教えの質が問われる改革であって欲しいと思っている。

「何を教え、何を目的とする高校か」を、はっきり示すべきと考えており、恵まれた能力を世のため、人のために生かすという教育を期待する。

・委員)

交通の便が良く、魅力ある高校づくりが進められていることもあって、長野や松代から上田地域の高校へ通う子も多いが、地域の経済界の方々など色々な思いもある中で、子ども達にとって多様な選択肢を確保するためにどうあるべきかという観点から、中長期的に何をすべきか見据えて、良い方向を出していければいいと思っている。

土屋会長)

流入超過や通学時間、交通手段や費用のことが課題として挙げられていますが、中学校の現場で実態として、意見など出されていますか。

・委員)

地域や住む場所によって違いはあるが、上田の街中では他地区へ受験校を求めていくことは少なく、上田西や佐久長聖、長野俊英など私立高校との併願が増えている現状もある。これは、流入超過の影響もあり、併願校をもっていないと不安で、公立高校を受験できないというのが

実情である。

ただし、上田市の周辺地区で、小諸市や軽井沢町、立科町や千曲市などに近い地区では、選択肢が広がっていると思われる。

・委員)

子ども達に対しては、胸を張って地域校へ行って欲しいと声がけをしている。どの高校であっても、子ども達がどんな目的意識を持って3年間を過ごすかが重要であり、中学校の先生も一人ひとりに目を向け、高校の先生とも情報交換しながら、双方で明確な目標を持って対応すべきと考えている。

「信州学」の取組についても、地域学に力を入れるのは「生きる力」を育むことに狙いがあり、自分の生まれ育った地域に誇りを持たずして「生き抜く人材」が育つのか考えてきた。生徒たちが地域の課題や特色を学ぶ中で、自分たちは何をしていくのかビジョンを持ちながら、地域へ発信する機会も作っている。

通学の問題など内容面の情報についての共有も、この会で深められたらと思っている。

・委員)

これまでは高校を選択する際に点数を基準としてきている中で、「入口」として高校に入るための指導はするが、高校で何を学んで卒業していくかという「出口」を見据えた指導は難しいと感じている。

・委員)

子ども達には、多様な選択肢や色んな学び方があるということを伝えてきたつもりだったが、アンケートの結果や、委員の方からの意見にもあったように、先生たちの意識を変えないと、生徒や保護者の意識も変わっていかないということを感じている。

土屋会長)

併願する状況というのは、市内でも多くありますか。

・委員)

上田市内の普通科3校を受ける子ども達の、およそ8割は併願していて、県立高校だけを受験する子どもは少なくなっているという印象がある。

・委員)

併願して希望する県立高校に落ちてしまった子ども達が、別の高校へ行くことになった場合、胸を張って通うことができないというような話を多く耳にする。どこの高校であっても、それぞれ特色があり、将来の展望なども明確にできるように考えるべきだと思う。

・委員)

周りの保護者に聞いても、併願することが多いと思う。一年、路頭に迷わせたくない思いがあると思われる。昔と違って、浪人させる時代ではないように思う。

・委員)

併願という役割を担ってくれているのが上田西高校であり、流入の問題は私立高校にも影響があるので、その辺りも含めて高校改革を考えていく必要があると思う。

・委員)

流入超過や通学時間の問題を解消する最適な条件は小学区制だがそうもいかず、10%条項による対応でも50歩100歩のところもあり悩んでいる。他地域からの流入により学力を高

めるよりも各校の努力で子ども達の学力や生きる力、将来の希望を高めていくことが重要であり、私は、流入超過については最大限の配慮を県に求めたいと考えている。

このことは私立高校とも関連があるので、公立・私立を含め議論していく必要がある。

このあと、委員の皆さんからは本日の議論を踏まえ、改めて個別意見として事務局へ意見・提言を寄せてもらったものをまとめ、次回につなげていくことを提案したい。

4 連絡事項

事務局から委員の提案を受け「個別意見」提出を依頼し、今後の進め方について説明

5 その他

- ・第3回の開催日程について 令和2年2月頃 予定

(上田市 事務局) 次回の日程と協議予定内容等について事務局から説明

(県教委 事務局) 各高校で実践している地域連携、地域の学びについて、PRに努めたい。
流入超過の件については、隣接区でも高校の魅力づくりが重要であると話題に挙がっており、今後の取組みに期待している。

6 閉会

土屋会長)

それでは、以上を持ちまして、第2回上田地域の高校の将来像を考える協議会を閉会いたします。今後も引き続きご協力を、よろしくお願いいたします。

本日は、大変にお疲れさまでした。